

# ウニを減らし豊かなガラモ場を再生する

指宿地区水産振興会

## 指宿地区について

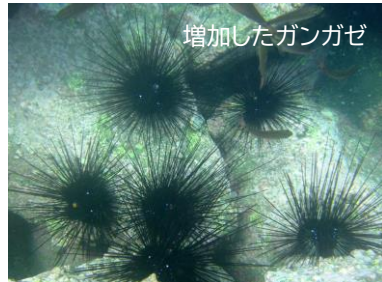
指宿地区は、薩摩半島南部、鹿児島湾（錦江湾）の湾口部に位置している。市の全域を霧島火山脈が縦断しており、湯量に恵まれた温泉地として知られている。中でも、世界に類を見ない天然の「砂むし温泉」や、九州最大のカルデラ湖である「池田湖」は全国的にも有名である。

水産業については、底曳網や刺網、一本釣り漁業などを中心とした沖合・沿岸漁業が営まれ、エビ、タコ、イカなど多種多様な魚種が水揚げされている。



## 組織の設立および背景

かつて、地区の沿岸ではホンダワラ類を中心とした藻場が広がっていたが、次第に藻場の減少が確認されるようになった。特に、指宿地区北側に位置する「岩本地先」では、昭和53年に約36haあった大型海藻で構成された藻場が、平成8年には10haにまで減少していた。その後も、増加したガンガゼの食害により、磯焼けも見られるようになったこと



増加したガンガゼ

ことから、平成18年に「指宿岩本地区藻場保全会」を結成し、藻場の保全活動を開始した。また、平成21年には、環境・生態系保全活動支援事業を活用して「指宿地区藻場保全会」へ改組し、平成25年からは「指宿地区水産振興会」として活動を継続している。

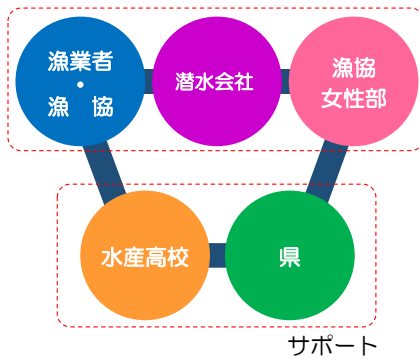
## 活動方針と体制

当会の活動目的は、「藻場を回復し、漁場機能・水産資源を再生する」ことであり、中層網を利用した「母藻設置」や潜水による「ウニ除去」を主な活動として実施している。

組織の体制は、漁業者を主体に、漁協、潜水会社、漁協女性部から構成しており、鹿児島水産高校や県の水産技術開発センターのサポートを受けながら活動を進めている。

また、当会での活動は潜水で実施する内容が多く、かつては潜水できる人材を探して構成員に呼び込むこともあった。その後、構成員として潜水会社と連携し共に活動を行ったことをきっかけに、一部の漁業者が自ら潜水士の資格を取得して作業を行うようになった。そして、現在では、漁業者が率先して潜水での活動を実施している。

### 活動組織



## 藻場の保全活動

### (1) 中層網による母藻設置

この取組は、母藻を取り付けた網を藻場造成範囲の中層に張り、種（幼胚）の供給を促進するものである。ホンダワラ類が成熟する5~6月頃に母藻を採取し、大小異なる目合の二重網に母藻を取り付け海中に投入し、潜水により網を整える。その後、母藻が種（幼胚）を落とすのを待ち、台風シーズン前の7月中に中層網を撤去する。



### (2) 潜水によるウニ除去

ウニ（主にガンガゼ）の除去は、潜水でウニを潰す方法で行う。殻を少し割ったぐらいではウニが再生する可能性があるため、柄付きのスクレイパーなどを用いて2つ以上に割るようにしている。



## 水産高校とのウニ除去作業

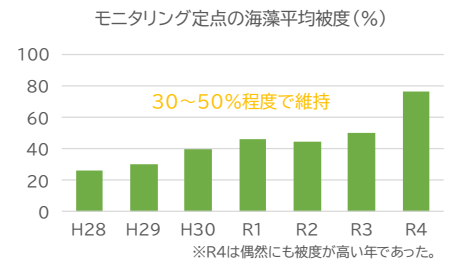
非常に多くのウニを除去する必要があるため、潜水の授業がある水産高校に協力を仰いだところ、実地練習として活動に参加してもらえることになった。学生自身も「ウニを除去する」という目的意識を持って授業を受けることから、有意義な練習となっている。当活動は平成20年頃からは行っている取組で、水産高校の恒例行事として根付いている。



## 活動の成果と今後の方針

藻場の保全活動を行ってきた結果、ホンダワラ類や小型海藻類が被度30~50%程度で維持できるようになった。また、藻場が維持されるようになったことで、アオリイカの卵も確認されるようになった。

ただし、未だにウニが多く見られるほか、近年では南方系のホンダワラ類の増加（海藻種類の変化）、年による海藻成熟時期の変化など課題が多い。今後も、母藻設置やウニ除去、モニタリングを継続するとともに、状況に応じた活動を実施していきたい。



繁茂したホンダワラ類とアオリイカの卵